

平成 30 年度 1 学期始業式講話

校長 岩田 学

3 年生が卒業し、明日新入生が入学してきます。いよいよ、皆さんが中心になって篠ノ井高校を創っていく時が来ました。

今日、文科省から「主体的・対話的で深い学び」を探究するという教育課程の方向性が示されていますが、その目的は何でしょうか。私は、その学びをとおして、「自分の言葉で夢や志を語り、希望を形にできる生徒を育てる」ことだと考えています。

制度の変革期にあっては、現状維持は停滞を意味し、今みなさんに求められているのは「前例のない未来を創る」学力だと思います。実際の大学入試においても、従来の知識が多ければ評価される選抜から、それに加えて、英語コミュニケーション力、プレゼンテーション能力などを使い、自分の意思を形にする学力も評価する選抜に変化して来ました。

自分の中にある、伸びる力を最大限に引き出すため、平成 30 年度の始めにあたり、皆さんに 3 つの期待を述べたいと思います。

○ 進路希望に向き合い、仲間と切磋琢磨する

自分の生き方に対する自信から、他者を受け入れる懐の深さが生まれるという事を終業式に話しました。進路も同じです。先ずは自分の進路希望に正面から向き合うこと。そして、学校は集団活動の場だから仲間と共に切磋琢磨することが大切です。

○ 課題の一つひとつをやり切る

卒業 進級に向け、一つひとつの課題をやり切る。目の前にあるテストの事であり、5 月からの高校総体の事であり、8 月の信州総文祭の事です。入試制度は変わってきましたが、高校時代にやり切った経験が、次のステップへ挑戦する切符に繋がる仕組みは、私が高校生だった頃と少しも変わっていません。

○ できうれば美しく

なかなか、難しいが「ただやる、何とかこなす」状態から、できうれば美しく仕上げる段階に成長して欲しい。3 月に定時制を卒業した生徒たちの清掃ぶりは見事でした、朝の教室で何かを感じたはずです。自分の長所を磨き、仲間の長所に学ぶためには、環境も自分の心も清潔でフレッシュであることを大切にしてください。

明日、新入生が入学します。皆さんが中心となりこの篠ノ井高校を支えていく。生徒一人ひとりの夢を、地域に、世界に、そして未来につなぐ篠ノ井高校でありたい。